

表 1 日本語と「集合」記法の対応

日本語	「集合」記法
事象とその発生	
標本空間	S
s が起こり得る	$s \in S$
A は事象である	$A \subseteq S$
A が起きた	$\underline{s} \in A$
必ず何かが起きる	$\underline{s} \in S$
事象から新たな事象を作る	
A または B	$A \cup B$
A かつ B	$A \cap B$
A でない	A^c
A か B のいずれか一方	$(A \cap B^c) \cup (A^c \cap B)$
A_1, \dots, A_n の少なくとも 1 つ	$A_1 \cup \dots \cup A_n$
A_1, \dots, A_n のすべて	$A_1 \cap \dots \cap A_n$
事象同士の関係	
A ならば B	$A \subseteq B$
A と B が排反	$A \cap B = \emptyset$
A_1, \dots, A_n が S の分割である	$A_1 \cup \dots \cup A_n = S, A_i \cap A_j = \emptyset$ for $i \neq j$

注： \underline{s} は、実現した結果（試行を実施したときに観察された結果）を表す。

Blitzstein and Hwang (2015, p.6) の表を元に作成。